

卷之三

少卿之子，其名曰平。平之生也，歲在癸卯，號爲卯君。平之
母，張氏也。張氏者，平陽人也。平陽人，多穎慧而堅忍，謀
略多奇，故號爲平陽人。平之生也，家貧，多病，嘗拾柴薪以
自營。年二十，始入學。遇一老嫗，善織綢，號平陽嫗。平之
母，嘗病，嫗為織綢，送至平陽，以償其母之病。平之母，病

卷之三

卷之三

法財團協調會福岡出張所

買ふ労働者は苦痛であるからと單なる現象形態に促はれたのである、然し事實は相反するのである。諸君労働者が米の値下を要望するときは農民大衆も亦同様である、諸君か米の値上に苦しむ時は吾々小作人も亦苦しむのである、地主と労働者の利害は相反するも~~然~~諸君と吾々小作人の利害は相一致するのである、農氏は労働者の援助なくしては亦労働者は農氏の援助なくては天下は取れぬ、觀念遊戯をやめて健實の二字を守本尊として戰線を統一強化せよ、吾等の希望する農民労働者の社會が必ず来る之れが貴境に努力せよ。

過去八星霜諸君と共に社大黨の主義綱領の下に邁進して來た、人生存在の意義は文化の向上・生命の保存・増殖に

卷之三

七

卷之三